

波照間永吉教授退任記念号の刊行に寄せて

附属研究所長 久万田 晋

このたび、2016年3月をもって沖縄県立芸術大学附属研究所芸術文化学部門の波照間永吉教授が定年を迎え退任されることとなった。

波照間永吉教授は1986年の本校開学時に附属研究所講師として採用され、1990年に助教授、1994年には教授となり、これまで通算30年間にわたり勤務してこられた。この間、芸術文化学部門の専任教員として沖縄県内各地の祭祀、民俗、歌謡、文学について膨大な調査研究を積み重ねてこられる一方、附属研究所長を通算10年にわたって務められ、本学の学術的研究の中心として大学運営に大きく貢献されてきた。また本学が所蔵する鎌倉芳太郎関係資料の整理事業においては、プロジェクトのリーダーとして長年奮闘されてきた。本学の大学院教育においては造形芸術研究科（1993年～）、芸術文化学研究科教授（1996年～）を兼任され、数多くの学生の研究指導と学位授与に携わってこられた。その教育上の功績には顕著なものがある。

波照間教授の研究業績については、本号所収の業績一覧に詳しく掲載されているが、これまでに『中原善忠全集総索引・歌謡研究索引』（1978年）、『日本民謡大観 沖縄奄美』全4巻（1989-93年）、『沖縄古語大辞典』（1995年）、『定本琉球国由来記』（1997年）、『南島祭祀歌謡の研究』（1999年）、『定本おもろさうし』（2002年）、『琉球・沖縄芸能史年表（古琉球～近代篇）』（2010年）、『竹富方言辞典』（2011年）、『鎌倉芳太郎資料集（ノート篇I～IV）』（2004-2016年）など、沖縄における言語、文学、歌謡、芸能、民俗など幅広い人文学研究の土台となる幾多の基礎的文献の企画、編集、出版に携わってこられた。これらの多大な業績に対して、2013年には名誉ある第一回日本学賞を受賞されたことは同僚・後輩として喜びに堪えない。このような琉球文学研究をもとにした沖縄文化全般に対する広く深い学識によって、現代を代表する沖縄研究の第一人者として全国的、世界的な名声を確立されているのである。

波照間教授のご研究が、今後もますます発展し、我々沖縄文化研究に携わる後輩達の大きな目標であり続けていただくことを願ってやまない。